



Newsletter No.89

2022年6月15日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

いま踏んばって声を上げよう！

—「戦争反対・労働者の権利守れ」—

2年以上続いてきた「コロナ禍」に加え、2022年2月にはじまったロシアのウクライナ侵攻で、世界は大きく変わりました。自民党政権はこれを好機として、米国と組んで軍事大国化「戦争する国」の道に突き進もうとしています。7月の参院選次第では、衆参両院で改憲に必要な3分の2がクリアされます。戦後日本の「平和・民主主義・人権」は、最大の危機を迎えていると言えるでしょう。働くものの権利は蔑ろにされ、しっかり声をあげる労働運動（関西生コン、韓国サンケン）に対しては、手ひどい弾圧が加えられています。また、デジタル超管理社会づくりも着々と進行しています。「戦争遂行と言論弾圧」がセットになっているのは、戦前の歴史をみるまでもなく明らかです。

4月13日の「共同テーブル」集会で、中野晃一さんは軍備増強の風潮を手厳しく批判しました。「相互の武力のエスカレートは何をもたらすかはハッキリしている。武力を高めれば安全ではなく戦争を招くことになる。よく考えればわかること。私たちは全面的な平和主義・素朴な平和主義で行くべきだ」と。また5月31日の反原発講演会で小出裕章さんは、「たいへん厳しい状況だ。でも夏に選挙があるし、なんとしても自民党を倒さなくては行けない。踏んばっていいこうではないか。この国が戦争に落ちていくことを防ぎたい」と渾身の訴えをしました。

知識人も本気で声を出しはじめています。主権者である私たち自身が、これほど試されているときはありません。

レイバーネットは今年で22年目ですが、私たちの運動も正念場です。戦後日本の歴史の岐路にたたされている今、「戦争反対・労働者の権利守れ」の声を発信できるネットワーク・メディアとして頑張っていきたいものです。（松原明 / 共同代表）



レイバー映画祭、松元ヒロ『テレビで会えない芸人』をメインに

7月23日（土）全水道会館で開催される今年のレイバー映画祭のメインは、松元ヒロの『テレビで会えない芸人』です。日本国憲法を人間に見立てた『憲法くん』をはじめ、政治や社会問題を鋭く風刺して笑いに昇華する芸人、松元ヒロ。憲法が危機を迎えている今こそ、多くの人に観てほしい作品です。当日は、（予定ですが）ヒロさんの舞台挨拶もあります。また労働現場からのホットな作品が勢揃いしました。さあレイバー映画祭で「希望と勇気」をもらいましょう。時間など詳細はチラシをご覧ください。



〔上映作品〕

- 『島がミサイル基地になるのか〜若きハルサーたちの唄』（湯本雅典 2021年・60分）
- 『プラットフォームビジネス「自由な働き方」の罠』（制作：PARC / 監督：土屋トカチ・35分）
- 『あの空に帰ろう！ JAL 争議団 11年目のたたかい』（制作：ビデオプレス 2022年・20分）
- 『日本に飛べ 連帯の道を〜韓国サンケン闘争』（制作：韓国 KBS 2022年・50分）
- 『これから「関西生コン事件」と私たち』（仮題）（制作：全日本建設運輸連帯労働組合 / 監督：土屋トカチ 2022年・60分）
- 『テレビで会えない芸人』（監督：四元良隆・牧祐樹 2021年・81分）

＜レイバーネットの活動予定＞

- レイバーネットTV第170号 6月15日
「崖っぷちの九条一参院選をどう見るか」 瀬瀬（こうけつ） あつしさん
「頑張れ！ フランスの新民衆連合」 パリとオンラインでつながる
- 夏期合宿 SCAT セミナールーム「毛呂分室」
8月19日（金）午後〜20日（土）昼

- 第二回フィールドワーククラブ「秩父事件」
8月20日（土）夜〜21日（日）
夏期合宿の延長企画。ぜひ両方ご参加ください。
＜映画祭カンパのお願い＞
今年の映画祭は劇場作品を借りるためかなりの出費が見込まれます。ぜひ賛同カンパで支えてください。振替用紙をご利用ください。

レイバーネット総会 2022 開かれる

「ウクライナ・改憲」めぐって熱くディスカッション

2001年に40人で発足した「レイバーネット日本」は、20年を経て現在560人の「はたらくものの情報ネットワーク」に育ちました。3月13日、「レイバーネット総会2022」が東京・水道橋の「スペースたんぼぼ」で開催されました。リアル24人、オンライン14人の計38人が参加しました。一部では「経過報告・会計報告・各プロジェクトからの報告」



などがありました。また、個々の活動からさまざまな広がりが見られることがレポートされ、元気がでる内容となりました。

財政も大口カンパなどがあり、黒字基調で2022年を迎えています。

第二部の特別企画は、ミドル世代5人による問題提起とディスカッションでした。植松青児（編集者）、石井信久（「島 じまスタンディング」）、加藤直樹（フリーライター）、松元ちえ（ジャーナリスト）、菱山南帆子（許すな！憲法 改悪市民連絡会）5氏がパネリストになり、ロシアのウクライナ侵攻という緊急事態を受け、さまざまな角度からディスカッションが行われました。菱山南帆子さんからは、「改憲阻止に本気で取り組もう」との呼びかけがありました。

＜レイバーネット2021年度会計報告＞

2022年3月13日 松原

会計監査 奥山

会計年度 2021年1月1日～12月31日

〔基本財政〕

●収入

会費	1,272,000円(355件)
カンパ	450,755円(大口あり)
雑入	38,400円(句集ほか)

小計 1761155円

●支出

ニュースレター印刷費・発送費	229,967円(3回分)
会議・取材交通費	207,280円
大封筒印刷費	41,138円
運搬タクシー	17,880円
会場費	51,800円
送金手数料	48,318円
消耗品文具	51,742円
謝礼(講師・依頼原稿など)	33,100円
ネット関係費(JCA-NET)	225,560円
(サーバメンテ費用・ZOOM費用)	
事務所維持費	360,000円(月3万円)

国際部活動費(翻訳)	36,000円
技術部ウェブ管理費	72,000円
備品類(高幣扱い)	21,573円
雑支出	10,564円(本代など)

小計 1,406,922円

★基本財政(差引) 354,233円(a)
〔特別会計〕

●レイバー映画祭2021

収入	465,785円
(参加費・チケット・カンパ・物販含む)	
支出	347,735円
差引	118,050円(b)

●レイバーフェスタ2021

収入	372,101円
(参加費・賛同金・チケット)	
支出	341,513円
(チラシ印刷・映画代)	
差引	30,588円(c)

●レイバーネットTV

収入 TVサポーター会費	138,000円(69件)
支出 放送一式10回分	302,970円(1回約3万円)

(会場費・出演ギャラ・運搬費・スタッフギャラなど)

機材関係その他	34,345円
小計	337,315円
差引	△199,315円(d)

★2021年度の決算

(a) + (b) + (c) - (d) = 303,556円

★2020年度よりの繰越金 680,452円
差引残高 984008円(2021年12月31日)

●2022年度運営委員 計33人 順不同

河添誠(共同代表・都留文科大学非常勤講師) / 安田幸弘(共同代表・技術部) / 尾澤邦子(共同代表・ノレの会) / 松原明(共同代表・ビデオプレス) / 土屋トカチ(事務局長・映像グループ「ローポジション」) / 佐々木有美(ビデオプレス) / 高幣真公(国際部・日中労働情報フォーラム) / 杜海樹(ライター) / 安齋徹雄(出版ネッツ) / 森広泰平(アジア記者クラブ) / 須田光照(東京東部労組) / 下見徳章(郵政ユニオン) / ジョニーH(音楽班) / 笠原真弓(川柳班) / 杭迫隆太 / 乱鬼龍(川柳班) / 堀切さとみ(映像制作者) / 西中誠一郎(ジャーナリスト) / 山口正紀(ジャーナリスト) / 白石孝(官製ワーキングプア研究会) / 前田健司(レイバーネットTV) / 稲垣豊(国際部) / 長島信也(「笑い茸」発行人) / 根岸恵子(アクティビスト) / 金野正晴 / 北穂さゆり(レイバーネットTV) / 渡辺照子(ブッククラブ) / 柴田武男 / 志真秀弘(ブッククラブ) / 黒鉄好(コラム担当) / 井手窪啓一(関西・なかまユニオン) / 大椿裕子(関西・大阪教育合同労組) / 奥山貴重(会計監査)

各プロジェクト活動報告

●フィールドワーククラブ 第1回 身近にあった加害の歴史「軍都新宿と731部隊」



レイバーネットには自主的プロジェクトがあり「ブッククラブ」「シネクラブ」「川柳班」などが活発に活動しているが、ことしになって「フィールドワーククラブ」が誕生した。5月15日、その第一回が開催された。参加者は18名で、最初のフィールドワークとしては、関心の高さをうかがわせる幸先の良いものとなった。案内人は「軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会（人骨の会）」事務局長で731ネットワークの鳥居靖さん。フィールドワークのガイドとして長い経験を持ち、現地の歴史的経緯とその痕跡について詳細な説明をしてくれた。

この日のメインテーマは731部隊の総本部だった防疫研究室の跡地。そこはかつての軍医学校の敷地の中にあった。今では子供たちの運動場になっている。近接する感染症研究所からは1989年に100人以上の人から集められた人骨が発見された。その由来については今も不明のまま。その遺骨たちは厚生労働省によって、感染研内の納骨施設に納められている。感染研の周辺にはかつての軍医学校の遺跡らしきものが残るが、隠蔽されていることは否めない。

このフィールドワークから見てきたのは、遠いと思っていた過去の戦争は、実は私たちの身近にあったということだ。権力は都合な歴史を隠蔽しようとするが、私たちは掘り返してでも、それを残す努力をしていきたい。（根岸恵子）

●川柳班『世直し川柳かわら版』を憲法集会で撒く

3月の句会で4月の兼題は「憲法」に決まった。さらに5月3日の憲法集会上『世直し川柳かわら版』をつくり撒こうということになった。前回はコロナ特集だったが、今回は憲法特集。4月句会の得点句を中心に、最近の句会の川柳を『世直しかわら版』に載せ、東京・有明の憲法集会当日は、川柳班若手4名で1000枚撒いた。早く出来上がったので1



日の日比谷メーデーにも撒いた。まだ残部有りますので欲しい方は連絡して下さい。（笑い茸）（写真は5.3集会の配布の様子）

●レイバーブッククラブ

次の目標は国際読書会？

〈ブッククラブ〉の良さは、一冊の本の世界を隅々まで味わえることです。この間12/18『貧困パンデミック』、今年2/12『日本移民日記』と開催し、4/2は、著者の太田昌国さんをお招きして『〈万人〉から離れて立つ表現』をめぐって話しました。貝原浩の戯画の鋭い風刺、そして著者の果敢な批評をめぐり活発な意見が続きました。著者を交えての討論は、ともすればよそゆきになりがちですが、率直な意見交換ができました。6/4（36回）は『忘却の野に春を想う』です。オンライン開催は、コロナ禍に対する対策でもありましたが、毎回十数名の、それも各地からの参加者がいます。オンラインの利点、そしてレイバーネットの国際性を活かして、機会をみて国際読書会を試みたいと思っています。時差を考慮して、工夫すれば可能でしょうか？（志真秀弘）

●「本の発見」筆者交流会開催

5月7日、「週刊 本の発見」の筆者交流会を初めてオンラインで開きました。「本の発見」は2017年2月にスタート。6月には毎週木曜掲載の週刊になり、すでに255回（5/26）を数えます。当初は、ネットでの書評は珍しいものでしたが、5年以上たってははやそうではありません。交流会では締め切り、字数の確認に始まり、読者の声、出版社の反応なども紹介され、さらに本選びの苦心なども披露されました。ちなみに本選びは筆者一任です。高校国語の教科書に採用されている文章を教えてきた志水博子さんが、その文章の筆者「大西赤人さんと話ができて嬉しかった」とのハプニングもあって楽しい交流会になりました。ぜひ定期開催を、との声もあり今後実現できればと思います。（志真秀弘）

新会員紹介

●民衆メディアとしての役割大きい 尾沢孝司



レイバーネットには、第一次韓国サンケン闘争（2016年～17年）の時から、継続して報道して下さり、支援の輪が広がるのに、大きな力になって下さいました。今回、私がサンケン電気の本社前行動で突然逮捕され、7か月半の勾留の末に保釈されたことを契機に、第二次闘争（2020年～）の問題と、私の逮捕の問題を特集で放送して下さい、大変ありがたく思い、加入しました。日本では、民衆の側のメディアは、とても力が弱いと思います。民衆には真実が知らされていないし、小さな闘いはほとんど知られていません。このような状況の中でレイバーネットの役割はとても大きいです。レイバーネットを通して韓国サンケン闘争が広がればと思うし、またレイバーネットも発展すればと思います。

●改憲阻止に向けてビデオを制作 渡辺 勉
今は改憲阻止が一番の課題です。私がレイバーネットでも動画紹介した伊藤真弁護士の「考えよう！自民党改憲4項目一批判的考察」は非常に重要な指摘をされています。自民党はこの4項目を基本的に改憲を狙っています。このビデオを活用して、改憲阻止しましょう！7月23日のレイバー映画祭では、松元ヒロさんのドキュメント『テレビで会えない芸人』が上映されます。ヒロさんのことは知っていましたが、映画を観るまで、こんな状況だとは知らなかったです。ぜひご覧ください。そして、ヒロさんのステージを観て下さい。

●フリージャーナリストとして新たな挑戦 土田修

この度、レイバーネットの会員に加えていただきました土田です。3年前に中日新聞東京本社（東京新聞）を退職し現在、フリージャーナリストとして活動しています。40年間、新聞記者として働いた経験から、日本のメディアの海外情報が英米語圏に偏っていることに疑問を感じ、2015年にフランスの月刊評論紙ル・モンド・ディプロマティックの翻訳についての正式ライセンスを取得し、以来、ネット上で日本語版 (<http://www.diplo.jp>) の発行を続けています。また、去年は社会的・連帯経済を意識し、編集・出版のためのアソシエーションだるま舎を設立し、社会評論社との協働で『新型コロナ災害緊急アクション活動日誌』『この暗黒社会に光を！』を出版しました。著書は『日本を

変える女たち』(ele-king 臨時増刊号、共著) などです。今後はレイバーネットにも活動の場を広げていければ幸いです。

INFORMATION

●争議団初「JAL 青空チャンネル」がスタート

2010年大晦日に強行された165人のJAL 整理解雇。経営破綻を隠れ蓑に組合つぶしを狙ったことは明白だった。このまま切り捨てられてたまるかと、当事者たちは11年目にして新組合「JAL 被解雇者労働組合」をつくった。そして争議団で初めてのYouTubeに挑戦。レイバーネットも技術面で全面協力し、2022年4月にスタートした。



●フランスに広がる『アリ地獄天国』

「アリさんマークの引越社」で組合をつくって頑張ってきた30代の男性社員を追ったドキュメンタリー映画『アリ地獄天国』（土屋トカチ監督）が、フランスで広がっている。去る2021年12月3日～4日、フランスで開催された「第1回 日本の窓ドキュメンタリー映画祭」では、大好評で2021賞を受賞した。その記念にプレゼントされたのが「フランス語字幕制作」だった。このたびその字幕版も完成し、初上映が5月16日、パリのポンピドゥー・センターで開催された。

●台湾に広がる『メトロレディーブルース』

非正規労働者問題を描いた『メトロレディーブルース（劇場版）』（ビデオプレス作品）は、台湾で活躍している。4月～5月に開催された「台湾『労働の日』映画祭」では、台湾語版による巡回上映が島の各地で行われた。また6月7日には台湾労働者協会が主催する上映会が台北あり、上映後、東京の「女闘労倶楽部」のメンバーとオンライン交流会が行われた。台湾もハケンなど非正規労働者が激増し、同じ差別・格差問題にぶつかっている。

●「慰安婦」問題を描いた『雪道』東京上映

韓国映画『雪道』の東京上映が決まった。シネマハウス大塚で8月6日からだ。作品のエピソードはすべて元慰安婦たちの証言が元になっている。日本の植民地支配の実状がリアルに描かれていて、感動的作品に仕上がっている。字幕はレイバーネット国際部の安田幸弘さんが担当した。右翼の妨害も予想されるが、歴史の真実をしっかりと伝え広げる作品として、上映運動を成功させたい。レイバーネット事務局でもチケット（1100円）を扱っている。

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 560名

ウェブアクセス 1日 6,000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所

普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578